
調査年報 27

平成 26 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

調査年報 27

平成 26 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



湧別町 シブノツナイ2遺跡 調査状況



千歳市 トブシナイ2遺跡 調査状況



木古内町 札苅7遺跡 近景



木古内町 札苅8遺跡 調査状況



厚真町 上幌内3遺跡 III G P-1 (アイヌ文化期)



III G P-1 人骨(頭部)



III G P-1 鎌・刀子ほか



III G P-1 耳飾・ガラス玉



III G P-1 漆器(塗膜)



厚真町 上幌内3遺跡 III GP-2 副葬品 出土状況



III GP-2 北宋銭



III GP-2 玉



木古内町 大平4遺跡 P-48 木製品出土状況



根室市 トーサムボ口湖周辺竪穴群出土 石斧

目 次

口絵

目次

北海道史略年表

平成26年度の調査

1	調査の概要	1
2	調査遺跡	
	湧別町シブノツナイ 2 遺跡	4
	千歳市キウス 3 遺跡	6
	千歳市トブシナイ 2 遺跡	8
	千歳市イカベツ 2 遺跡	11
	千歳市根志越 5 遺跡	12
	長沼町幌内 K 遺跡	14
	長沼町レプントン川左岸遺跡	16
	長沼町レプントン川右岸遺跡	16
	厚真川上流域の発掘調査	18
	厚真町オニキシベ 3 遺跡	20
	厚真町ショロマ 4 遺跡	24
	厚真町上幌内 3 遺跡	28
	厚真町上幌内 4 遺跡	35
	根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群	36
	木古内町大平 4 遺跡	40
	木古内町亀川 5 遺跡	42
	木古内町札苺 7 遺跡	44
	木古内町札苺 8 遺跡	48
	木古内町泉沢 5 遺跡	52
3	現地研修会の報告	56
4	協力活動及び研修	58
5	平成26年度刊行報告書	60
6	組織・機構	61
7	職員	62

北海道史略年表

本州の時代区分		年代(西暦)	北海道の時代区分	平成26年度調査遺跡および掲載遺跡の主な時期		
明治～平成		A.D.1900	(近代・現代)			
江戸時代			近世	上幌内3 シヨロマ4		
室町時代			中世		アイヌ文化期	
鎌倉時代						
平安時代		A.D.1200	縄文文化期		シヨロマ4	
奈良時代		A.D.800	オホーツク文化期	シヨロマ4		
古墳時代						
弥生時代		A.D.300	縄文時代			
縄文時代	晩期	B.C.300	縄文時代	晩期	トブシナイ2・亀川5	
	後期			後期	トブシナイ2・札笱7 キウス3 オニキシベ3・札笱8・泉沢5 イカベツ2・レプントン川右岸・上幌内3・上幌内4・シヨロマ4 ・トーサムボロ湖周辺堅穴群	
	中期	B.C.2000		中期	幌内K・レプントン川左岸・大平4 根志越5・上幌内3 札笱7・泉沢5	
	前期	B.C.3000		前期	札笱8 トブシナイ2・トーサムボロ湖周辺堅穴群 ・シブノツナイ2	
	早期			B.C.4000	早期	イカベツ2・レプントン川右岸・上幌内3 ・トーサムボロ湖周辺堅穴群
	草創期			B.C.7000	草創期	
	旧石器時代			B.C.13000	旧石器時代	札笱8
		B.C.20000				
		B.C.30000				

平成26年度の調査

1 調査の概要

今年度は、道内6市町に所在する18遺跡で発掘調査を実施した。このうち4遺跡は前年から等の継続調査である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する道路工事や整備に伴う調査が4市町12遺跡、同じく遊水地整備が1市1遺跡、北海道振興総合振興局建設管理部が行う厚幌ダム建設に伴う調査が1町4遺跡、同じく釧路総合振興局建設管理部が行う道路改良が1市1遺跡である。いずれも整理作業を進行させており、整理作業のみを行ったのは数年来から今年度にかけての15遺跡の継続整理作業である。

以下、調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すようにし、時期の重複する遺構は始まるの時期あるいは主体とみられる時期を目安に記述する。なお、遺構などの()数字は員数であるが、時期や性格の認定作業にまで及んでいないものがあり、員数が確定していないものも多い。

旧石器時代 木古内町札刃8遺跡から美利河型細石刃核、削片、石刃などが少数出土している。

縄文時代 早期 厚真町上幌内3遺跡で早期後葉の中葉路式や東嶺路Ⅳ式の土器を伴った竪穴住居跡(3)が検出されているほか、千歳・長沼など各地で少量の遺物が確認されている。根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群B地区では早期後半期の土坑墓数や遺物のまとまった出土がみられた。

前期 木古内町札刃8遺跡で前期後半円筒下層c・d式期の盛土遺構(2)や竪穴住居跡(4)、土坑(9)等が検出され、盛土遺構から大量の遺物が出土している。千歳市トブシナイ2遺跡では小型の竪穴住居跡(1)と土坑群、遺物集中等が検出され、石器などから見て水場近くの作業関連と推定される。根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群B地区では過年度に引き続き竪穴住居跡(11)や土坑・焼土・遺物集中等、前期前半の集落の検出があった。約半数が焼失住居である。湧別町シブノツナイ2遺跡はシュブノツナイ式土器や石櫛、つまみ付きナイフ、石斧片などの遺物散布地であった。

中期 木古内町では札刃7遺跡で後期後半の竪穴群に先行して、中期前半から後期中葉にわたる、フラスコ状とその他の土坑群(12)の展開を確認。中期前半サイバ沢Ⅱ式期の竪穴住居跡(3)を検出した。後半の榎林式土器の出土も見られた。泉沢5遺跡では円筒上層式期の小型竪穴(2)や土坑・焼土が検出されたほか、中期から後期にかけてとみられるTピット列(10)やフラスコ状土坑群(19)も検出した。大平4遺跡でも石組炉を持つ中期後半の小型竪穴(1)を確認した。

厚真町上幌内3遺跡では中期中葉の荻ヶ岡式期竪穴住居跡(2)を検出し、中期から後期に属するとみられる各種形状のTピット(12)も調査した。低位にあるTピットでは坑底に杭が残存していた。オニキシベ3遺跡でもTピット(2)が検出された。

長沼町レプトン川左岸遺跡では竪穴住居跡(2)や土坑(1)を検出。幌内K遺跡では中期中葉の土器や緑色泥岩割片が散在していた。西遺跡では中～後期とみられるTピット(2・3)も調査した。千歳市根志越5遺跡でも荻ヶ岡式期竪穴住居跡(1)や土坑・焼土などを検出している。

後期 木古内町では泉沢5遺跡調査区の西寄りから中期末～後期にかけての竪穴住居跡(1)を検出。東側では前葉の天祐寺式土器が多く出土している。札刃8遺跡では後期前半の竪穴住居跡(1)を検出した。札刃7遺跡は後葉堂林式期の集落跡で、今年度は9軒の竪穴住居跡を調査した。住居の床面からは、鉢・深鉢・注口・ミニチュアなどの土器や割片石器類の出土が多い。平面形に楕円形(空豆形)(7)と円形(2)があり、後者は焼失住居であった。亀川5遺跡は後期から晩期にかけての遺物散布地で、Tピット(3)や土坑(2)のほか頁岩・珪化岩の割片集中域がみられる。

厚真町のオニキシベ3遺跡では、余市式期を主体とした前葉の竪穴住居跡が7軒調査されており、土坑(23)や石組炉(4)、遺物集中などとともに当該期の集落を形成している。住居の炉には石組炉と地床炉がある。上幌内3遺跡とシヨロマ4遺跡でも石組炉を持つ同期の大型住居跡が各2軒検出されている。千歳市キウス3遺跡では後期中葉の土器集中(2)がみられた。根室市トーサムボロ湖周辺竪穴群では後期初頭北簡式期の1個体が出土した土坑など当該期の土坑数基も確認されている。

晩期 今年度は遺構・遺物とも少なく、千歳市トブシナイ2遺跡でみられた晩期から続縄文期にかけての土器集中が目立つ程度である。

続縄文時代 厚真町シヨロマ4遺跡の大型石組炉と遺物散布ほか際だった出土はない。

オホーツク文化期 今年度の調査では検出していない。

縄文文化期 厚真町シヨロマ4遺跡では続縄文時代後半から縄文文化期をへてアイヌ文化期初頭に至る、平地住居跡(8)、土坑(22)、柱穴(96)、焼土(21)、遺物集中(19)、獣骨集中(5)などのまとまりを検出した。住居跡は柱穴等不明瞭な点もあるが、炉や棒状礫の出土状況、鉄製品等の検出を踏まえて認定した。遺物は縄文土器、礫が大半だが銅碗片を伴う金属製品の出土が特徴的である。また人歯を検出した浅い土坑墓(1)があり、耳飾、刀子などが副葬されていた。シカの歯が主体の獣骨集中は頭部が意図的に集められた送り場の様相を呈している。上幌内3遺跡では縄文後期を主体とした焼土や遺物集中を検出している。須恵器片も出土している。千歳市トブシナイ2遺跡で前葉の土器のまとまりがみられた。

アイヌ文化期 厚真町上幌内3遺跡で平地住居跡(7)、土坑墓(2)、送り場跡が確認された。人骨が良好に残存した近世墓ⅢGP-1は周溝、マウンド、墓標穴を持ち、共獣骨に鉄鍋と鉈、副葬品に鎌、刀子、耳飾、ガラス玉、漆器がみられた。円形墓坑のⅢGP-2は歯のみが残存し、首飾りとみられるガラス玉と北宋銭の一括が出土した。平地住居跡は棒状礫、鉄製品などが出土している。送り場跡はシカの頭部(角・歯・頭蓋骨)のみのまとまりで、杭列を伴っている。千歳市根志越5遺跡では、舟道具片や杭といった木製品や杭列跡が検出されている。

近世・近代 厚真町上幌内3遺跡で樽前b火山灰が柱穴に詰まった近代のアイヌ家屋(2)や建物跡(3)、土坑(3)を検出した。長沼町幌内K遺跡からは寛永通貨が4枚出土している。木古内町大平4遺跡では箱館戦争関係とみられる土坑(2)を検出した。

整理作業・報告書作成 道央圏連絡道路関係ではキウス3・11遺跡が継続整理となる。

函館一江差道関係では北斗市当別川左岸遺跡の報告書を刊行。釧野6遺跡補償道路部分の整理作業を展開している。木古内町域では大平4遺跡、大平遺跡の整理作業に取り掛かっている。札苅7遺跡は継続調査・整理中である。

遠軽地区高規格道路建設関係では、白滝遺跡群の旧白滝3遺跡の整理作業を進め報告書を刊行。これで平成7年度から調査を進めていた白滝遺跡群は今年度ですべての報告書の刊行を終えた。金山6遺跡も整理を終え報告書を刊行。

北海道新幹線関連では平成22・23年度に調査した北斗市押上1遺跡の整理がまとまり報告書を刊行。木古内町大平遺跡・新道4遺跡・福島町館崎遺跡の整理作業も、鋭意進行中である。

厚幌ダム事業では、平成25年度で調査を終えたオニキシベ1遺跡・イクバンドユクテセ2遺跡の報告書を刊行。継続整理のイクバンドユクテセ3遺跡や上幌内3遺跡の整理作業を展開するとともに、継続調査の上幌内4・5遺跡やオニキシベ3遺跡の調査計画を進めている。そのほかの北海道関係では、せたな町都道遺跡と厚真町朝日遺跡の整理作業を終え、報告書を刊行。平成21年度から断続的に調査・整理を進めていた根室市トーサムボロ湖周辺竪穴群は、平成23年度までの報告を刊行する。



平成26年度 発掘調査遺跡および掲載遺跡の位置図

平成26年度 事業別発掘調査・整理作業遺跡一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	現地調査年		
国土交通省 札幌開発建設部	道央圏連絡道路泉路道路工事	キウス11	千歳市	整理作業	平成24・25年度調査		
		キウス3		1,267	平成25年度から継続		
		トプシナイ2		4,528	新規		
			イカベツ2	長沼町	0	新規・遺物回収のみ	
		幌内K	2,294		新規		
		レプトン川左岸	2,398		新規		
		レプトン川右岸	297		新規		
北海道 函館開発建設部	根志緑地区遊水地整備事業	根志緑5	千歳市	2,000	新規		
		館野6	北斗市	整理作業	平成20・21年度調査		
		当別川左岸		整理作業	平成23・24年度調査		
		大平	木古内町	整理作業	平成25年度調査		
		大平4		整理作業	平成24・25年度調査		
		札内7		整理作業	平成25年度調査		
		大平4		7,119	平成24年度から継続		
		札内7		1,295	平成25年度から継続		
		札内8		832	新規		
		道庁 旭川開発建設部	旭川紋別自動車道道軽地区建設工事	亀川5	道庁	6,474	新規
				泉沢5		8,984	新規
旧白滝3	整理作業			平成20年度調査			
金山6	整理作業			平成23・25年度調査			
シブノナイ2	460			新規			
道庁 北見建設本部	北海道新幹線建設事業	館崎	福島町	整理作業	平成21～23年度調査		
		大平	木古内町	整理作業	平成21～23年度調査		
		新道4	整理作業	平成25年度調査			
		押上1	北斗市	整理作業	平成22・23年度調査		
		都	せたな町	整理作業	平成24年度調査		
北海道 胆振総合振興局	道道北樽山大成線(地交-68)工事	オニキシベ1	厚真町	整理作業	平成24・25年度調査		
		イクバンドユクチセ2		整理作業	平成25年度調査		
		イクバンドユクチセ3		整理作業	平成25年度調査		
		上幌内3		5,980	平成25年度から継続		
		上幌内4		0	新規・今年度は土壌調査のみ		
		シヨロマ4		4,470	新規		
道庁 釧路総合振興局	道道上幌内早来(俣)換交付金11(改築)	オニキシベ3	厚真町	15,020	新規		
		朝日		整理作業	平成24年度調査		
		トーサムボロ湖周辺整穴群		整理作業	平成21～23年度調査		
道庁 根室総合振興局	根室半島線(B改-153)交付金工事	トーサムボロ湖周辺整穴群	根室市	2,760	継続		
		トーサムボロ湖周辺整穴群					
合計					66,178 m ²		

2 調査遺跡

湧別町 シブノツナイ2遺跡(1-21-55)

事業名：一般国道238号湧別町紋別防雪工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

所在地：紋別郡湧別町信部内6135-5

調査面積：460㎡

調査期間：平成26年8月20日～9月19日

調査員：田口 尚、坂本尚史

赤井文人・内田和典（北海道教育委員会調査指導）

調査の概要

遺跡は、平成24年度の北海道教育委員会による一般国道238号紋別防雪事業にかかる所在確認調査によって新発見されたものである。所在確認調査は、国道に隣接する防風防雪林や牧草地で実施され、本遺跡内では、3か所の試掘坑から縄文時代前期の土器・石器が発見された。

遺跡は南側のJR旧名寄線と北側の国道238号に挟まれた防風防雪林内（針葉樹：エゾマツ・トドマツ、広葉樹：ミズナラ、カシワ、イタヤカエデ、ヤチダモ、ハルニレ、ヤナギなど）に立地する。発掘区は湧別町と紋別市の境界となっているシブノツナイ川右岸の標高約7～9mの段丘上に位置する。西側の低湿地には湧水が流れ、遺跡周辺には牧草地が広がっている。本遺跡の北側約600mには標識遺跡となったシブノツナイ遺跡（縄文時代前期）があり、遺跡から数km離れたシブノツナイ湖東側には遺指定のシブノツナイ堅穴住居群（オホーツク～檜文文化）、川西オホーツク遺跡（オホーツク文化）が分布している。

基本土層は、Ⅰ層：黒色土（表土・耕作土）、Ⅱ層：茶褐色～黒褐色土（遺物包含層、上層、中層、下層に分層、縄文時代前期の土器・石器等）、Ⅲ層：暗褐色粘土（小礫を含む漸移層）、Ⅳ層：明黄色～白色粘土（地山、上部は粘質性高く、下部は固くしめる）。

遺構と遺物

調査の結果、発掘区中央部に剥片（フレイク・チップ）集中2か所と浅い窪み状の土器・石器集中地点が確認された。集中地には、多量の剥片に石槍やスクレイパーなどが混在し、縄文時代前期の土器片が共存することから、剥片集中は当該期のものと考えられる。

遺物は剥片を主体に約6,000点出土した。表土上面からも土器・石器が見られ、国道の側溝掘削時に掘り上げられたものが混在する。本来の遺物包含層はⅡ層（層厚15～20cm）であり、縄文時代前期から中期の遺物が出土した。土器では刺突文、櫛目文、押型文が見られ、所謂シブノツナイ式土器（約5400年前頃）がその主体を占める。剥片石器では黒曜石製の石槍、石鏃、つまみ付きナイフ、ラウンドスクレイパー、エンドスクレイパーなどが多量に出土し、硬質頁岩製のつまみ付きナイフも数点見られる。礫石器では小型の石鏃、旭川市神居古潭原産の石材と見られる石斧片や破片などが出土している。石器では、完形の成品以外に、製作過程や二次加工の見られるものなど、加工のある破損品が多数確認できる。本遺跡は石器製作のための小規模な作業場であった可能性がある。

遺跡は、遺物の分布状況から、隣接する現遺溝溝部分から現国道下にも広がっているものと思われる。主体部は、湧水の流れる小河道にそって南西側に広がるものと考えられる。周辺住民の聞き取りによると解体撤去される前の旧シブノツナイ小学校内には、土器・石器などの遺物展示があったとされる。小学校建設時あるいは、旧国道および国鉄名寄線建築時に出土した遺物が展示されていた可能性もある。なお、本発掘調査では遺跡内の標準土層断面の剥き取り転写を実施し、今後のシブノツナイ湖周辺遺跡発掘調査における標準土層標本とした。



遺跡位置図



基本土層堆積狀況



調査完了狀況



遺物出土狀況



石器出土狀況



土器出土狀況 (刺突文)



土器出土狀況 (櫛目文)



土器出土狀況 (押型文)

千歳市 キウス3遺跡 (A-03-91)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市中央1473-4外

調査面積：1.267㎡

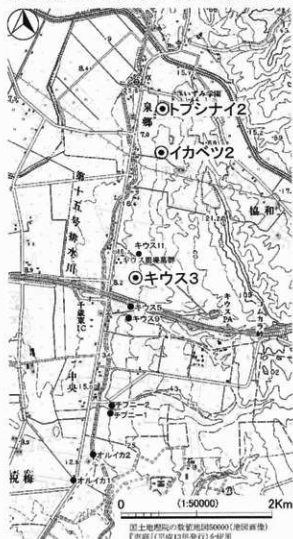
調査期間：平成26年8月1日～10月31日

調査員：鈴木宏行、坂本高史、高橋美鈴

調査の概要

長沼町東部から千歳市東部にかけて馬追丘陵が縦走し、その西側には石狩低地帯に向けて緩斜面が広がっている。緩斜面から裾部には多くの遺跡が立地し、長沼町ではタンネトウ式、堂林式の標式遺跡である幌内タンネトウ遺跡、幌内堂林遺跡、千歳市では国指定史跡キウス周堤墓群やキウス4・5遺跡などの大規模遺跡が集中する。

遺跡は道東自動車道千歳東ICの北東700m、国指定史跡キウス周堤墓群の東300mに位置し、馬追丘陵の西側緩斜面上に立地する。調査範囲の標高は26m前後である。昨年度はキウス11遺跡と沢を挟んだ南側の3.663㎡の調査を行い、縄文時代後期中葉～晩期前葉、続縄文時代前葉の土器集



遺跡位置図



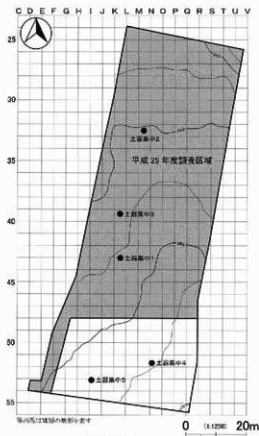
調査範囲と周辺の地形

中3か所が検出された。出土遺物の時期は縄文時代後期中・後葉が主体で、土器・石器合わせて約750点が出土している。今年度調査範囲はその南側の1,267㎡である。

基本層序は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：樽前aテフラ、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土、Ⅷ層：忠庭aテフラである。発掘調査は樽前cテフラ下位のⅤ・Ⅵ層を対象とした。

遺構と遺物

遺構として記録したものは、土器集中2か所である。土器集中は、縄文時代後期中葉に相当し、樽前cテフラの除去後、2～3cm程掘り下げたⅤ層から検出した。それらを含め土器350点、石器30点ほどが出土し、石器には石畿・石斧片などが含まれる。



遺構位置図



調査状況

千歳市 トブシナイ2遺跡 (A-03-104)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市泉郷437-25外

調査面積：4,528㎡

調査期間：平成26年6月23日～10月31日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、鈴木宏行、坂本尚史、山中文雄、高橋美鈴

調査の概要

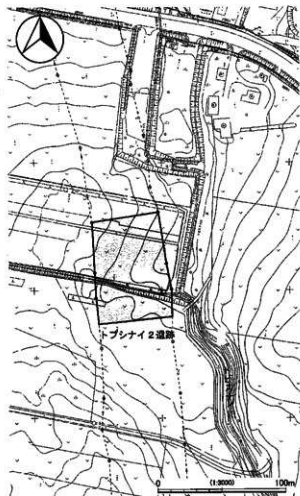
遺跡は道東自動車道千歳東ICの北北東2.5km、キウス遺跡群の北2kmに位置する。遺跡名の「トブシナイ」は、アイヌ語で「top-us-nay：根曲り竹・群生する・沢」と解されている。調査範囲の東側には遺跡名の由来であるトビスナイ川が北に向かって流れ、ほぼ中央でわずかに東に流路を変え、1kmほど北方で鞍淵川に合流する。地形的には丘陵の高位部、斜面裾からの湧水が流れ込む低位部、高位部と低位部やトビスナイ川と連結する斜面部、トビスナイ川旧河道に分けられる。標高は高位部が23m、低位部が19～20mである。高位部は後世の削平により支笏火山灰が露出している。

基本層序は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：樽前aテフラ、Ⅲ層：樽前cテフラ混じりの第Ⅰ黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土・恵庭aテフラである。低位部ではⅦ層が還元作用により白色化している。

遺構と遺物

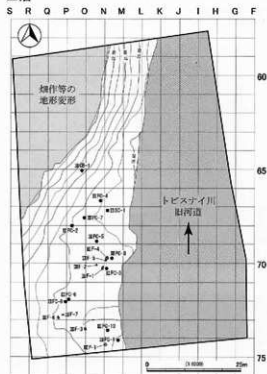
遺構はⅢ層で土坑1基、焼土7か所、炭化物集中1か所、礫集中1か所、土器集中10か所、Ⅴ層で竪穴住居跡1軒、土坑14基、Tピット1基、礫集中5か所、土器集中7か所、剥片集中7か所を検出した。土坑は円形と方～長方形のものがあり、前者は直径50～70cm程が主体で低位部南側に分布し、後者は1.5～2×2.5m程で斜面部と低位部の斜面際に分布する。これらの時期は判然としないが、周辺の遺物などから縄文時代前期の可能性が高い。特に後者はキウス5遺跡B地区の縄文時代前期の竪穴住居跡に形状・立地などが類似する。焼土は樽前cテフラ上位で確認され、焼骨片が含まれるものがある。礫集中は樽前cテフラ下位が主体で、その多くに被熱痕が観察される。

遺物は土器約16,700点、石器約22,800点で、土器は縄文時代早期（東鋼路Ⅳ式）、前期（綱文式など）、中期（北筒式）、後期（堂林式）、晩期後葉があり、統縄文時代は前葉、擦文文化期は前葉に相当する。石器は石鏃やつまみ付きナイフのほか、石斧や北海道式石冠を含むすり石が多く出土し、低位部における水場近くでの作業を反映している可能性がある。

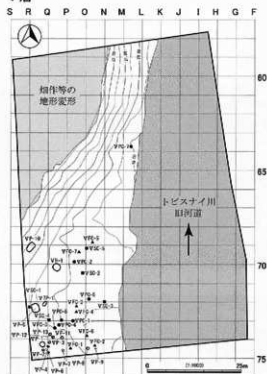


調査範囲と周辺の地形

Ⅲ層



V層



H:住居跡 P:土坑 TP:Tピット F:焼土 PC:土器集中(●) SC:硬床中(■) FC:割片集中(▲) CB:炭化物集中(◆)

遺構位置図



調査状況



VP-5 隅丸方形土坑



VP-12 小型円形土坑



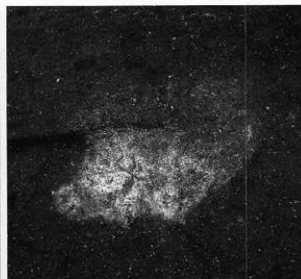
ⅢPC-1 (縄文時代晩期～続縄文時代)



VP-1 (縄文時代前期)



VSC-3



ⅢF-3

千歳市 イカベツ2遺跡 (A-03-107)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市泉郷1217-7外

調査面積：0㎡ (9,669㎡：遺物回収対象面積)

調査期間：平成26年6月16日～7月18日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、西脇対名夫・赤井文人・内田和典・高橋和樹 (北海道教育委員会)

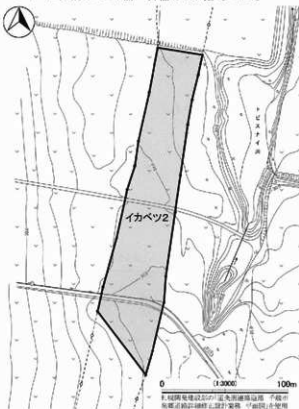
調査の概要

遺跡はJ R千歳駅から北東へ約10km、国指定史跡キウス周堤墓群の北1.5km、鯉淵川下流部に合流するトビスナイ川左岸源頭部 (鯉淵川合流点から約1.3km遡った地点) に立地する。遺跡名の「イカベツ」はアイヌ語で「ika-pet: 越える一川」と解されている。遺跡の位置はトビスナイ川左岸源頭部に流れ込む沢の肩部、南北に延びる丘陵の尾根～東斜面にあたる。今回の調査範囲は周知の包蔵地北縁に接する250×40～50mの範囲である。

調査に至る経緯については次のとおりである。平成7年度に道央圏連絡道の建設計画に係る埋蔵文化財保護のための事前協議が札幌開発建設部から北海道教育委員会になされ、平成26年北海道教育委員会より発掘調査の指示通知があり、当センターはそれを受諾した。調査にあたっては遺物包含層が移動堆積されていることから、土壌について遺物回収を行い、それについて北海道教育委員会文化財・博物館課職員の派遣指導をうけた。発掘調査・整理作業は次年度以降計画されている。

遺物

遺物回収によって得られた遺物は、縄文時代～統縄文時代の土器・石器である。その量は、36ⅡBコンテナに収納して土器・石器が83箱あった。



調査範囲と周辺の地形



重機による土壌の篩選別



遺物回収

千歳市 根志越5遺跡 (A-03-291)

事業名：根志越地区遊水地工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市根志越2476-1・2

調査面積：2,000㎡

調査期間：平成26年8月1日～10月31日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、山中文雄

調査の概要

遺跡はJR千歳駅から北北東へ約4km、千歳川右岸に位置する。遺跡名の「根志越」は、アイヌ語で「nesho-us-i：オニグルミの木・群生する・ところ」と解されている。現地表の標高は約8mであり、昭和30年代の長都沼干拓工事（「長都新水路工事」）以前は長都原野と呼ばれる未墾の泥炭地であった。約500m南西には縄文文化期の遺跡「トメト川1」がある。

調査に至る経緯については次のとおりである。この地区に洪水防止用の遊水地の建設計画がおり、平成22年から埋蔵文化財保護のための事前協議が北海道教育委員会と札幌開発建設部とでなされ、北海道教育委員会により平成23年から範囲確認調査が始まった。平成25年の試掘調査では樽前cテフラの下位から縄文時代中期の土器・石器が得られ、築堤にあたる範囲は記録保存が必要となった。発掘調査・整理作業は今年度から4か年で計画されている。

層序は、I層：耕作土、II層：樽前aテフラ（層厚約30cm）、III層：褐色泥炭質土（層厚約30cm、台地上の第I黒色土の相当）、IV層：樽前cテフラ（層厚約10cm）、V層：黒色泥炭質土（層厚約70cm、台地上の第II黒色土の相当）、VI層：漸移層、VII層：黄褐色土、VIII層：庭庭aテフラ、となっている。

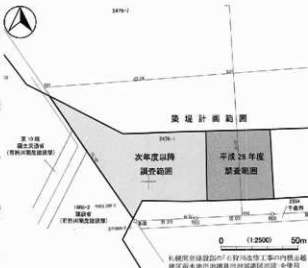
遺構と遺物

遺構は、縄文時代中期中葉を主な時期とする堅穴住居跡1軒・土坑2基・焼土2か所・土器集中4か所・剥片集中12か所・礫集中7か所・小柱穴6基が検出され、それらは標高4.5m前後にある。遺物は、縄文時代中期～後期初頭を主な時期とする土器約2,200点・石器約3,500点、アイヌ文化期の木製品6点・鉄製品1点がある。

調査区西半では黒曜石剥片・石斧調整剥片集中や堅穴住居跡が検出されたことから、来年度調査区にあたる西側には集落が存在する可能性もある。



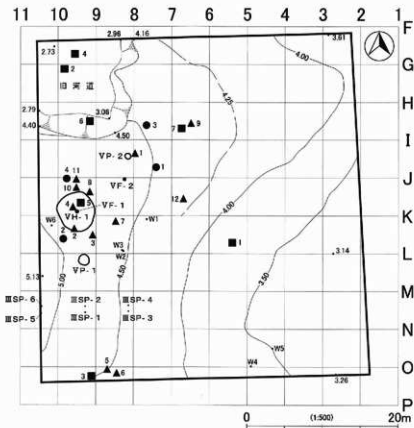
遺跡位置図



調査予定範囲

凡例

- SP: 瓦葺小柱穴
 - W: 瓦葺木製品出土地点
 - VH: V層竪穴位置跡
 - VP: V層土坑
 - VF: V層積土
 - : V層土器集中 (VPC)
 - ▲: V層割片集中 (VFC)
 - : V層礎集中 (VSC)
- 等高線は引線下記一帯幅の地形を表す



遺構位置図



調査区全景



調査状況



VH-1 調査状況

ながさき 長沼町 幌内K遺跡 (E-17-13)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：夕張郡長沼町字幌内1307-22外

調査面積：2,294 m²

調査期間：平成26年5月9日～7月31日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、鈴木宏行、坂本尚史、山中文雄、高橋美鈴

調査の概要

遺跡は長沼町の市街地から南南東へ約8km、ウレロッチ川左岸の標高13～18m程度の範囲に位置する。現況は畑地で、地形は馬追丘陵の縁辺部にあたるため西側へ緩く傾斜している。

長沼町域では道央圏連絡道路建設に伴い、これまでに南六号川左岸遺跡（平成23年度）、幌内D遺跡（平成23・24年度）の発掘調査が当センターによって行われている。今年度は本遺跡の他に、レプトン川左岸遺跡、レプトン川右岸遺跡の調査を行った。

基本層序は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：構前aテフラ、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：暗褐色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色土である。調査区域のおおよそ半分より東側は、耕作によって遺物包含層であるⅢ・Ⅳ層の大部分が失われていた。

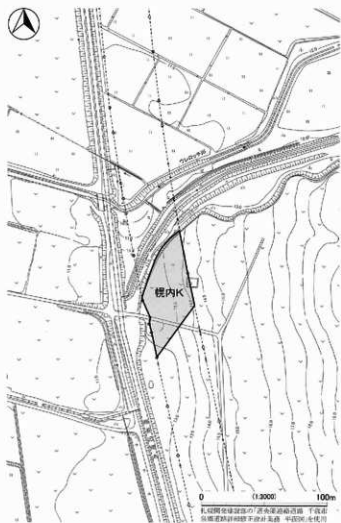
遺構と遺物

遺構はTピット2基（TP-1・2）、焼土6か所（F-1～6）、礫集中1か所（S-1）を検出した。Tピットはどちらも楕円形に近い形態で、長軸は等高線と平行なみである。杭跡がTP-1で3か所、TP-2で4か所見つかっている。焼土の検出面はF-1・2がⅣ層下位、F-3～6がⅢ層である。S-1はⅢ層上位で出土した約40点の礫・礫片のまとまりで、被熱したものも多い。

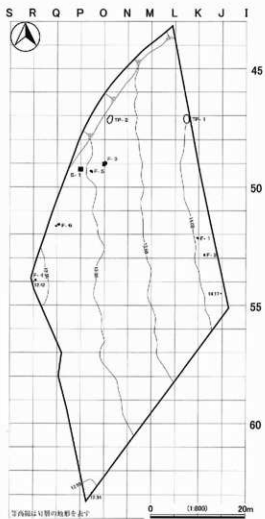
遺物は土器約2,000点、石器約700点が得られている。土器は縄文時代中期半ばのものが大半で、早期、後期のものもある。石器は黒曜石の遺物が少ないが、磨製石斧の製作で生じたとみられる緑色泥岩の剥片が多い。その他、寛永通寶が4点出土している。



遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



調査状況



TP-1

長沼町 レプトン川左岸遺跡 (E-17-59)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：夕張郡長沼町字ケヌフチ1441-9外

調査面積：2,398㎡

調査期間：平成26年6月2日～7月31日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、鈴木宏行、坂本尚史、山中文雄、高橋美鈴

調査の概要

遺跡は前述した幌内K遺跡から南へ約1km、レプトン川左岸の標高約13～15mの範囲に位置する。地形は馬追丘陵の縁辺部にあたることから、広い範囲で見ると西側へ緩く傾斜するが、調査範囲の北部ではレプトン川に向かう北西向きの傾斜となる。現況は畑地である。

基本層序はⅠ層：耕作土、Ⅱ層：樽前aテフラ、Ⅲ層：黒色土（中位に樽前cテフラが多く混じる）、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色土である。

遺構と遺物

遺構は堅穴住居跡2軒（H-1・2）、土坑1基（P-1）、Tピット3基（TP-1～3）、礫集中1か所（S-1）、骨片集中1か所を検出した。H-1は掘り込みが明瞭ではないが、長径約5.5mの浅い楕円形を呈するようで、中央に石組炉がある。H-2は長径約4mの卵形に掘り込まれており、中央に地床炉がある。北東壁で重複するP-1よりも古く、炭化材の出土状況から焼失住居の可能性がある。時期はH-1・2とも縄文時代中期であろう。Tピットの形態はいずれも溝状で、TP-1・2は等高線に直交し、TP-3は平行なみである。S-1は礫片約500点のまとまりで、被熱したものも多い。

遺物は土器約2,800点、石器等約3,200点が得られている。土器は縄文時代中期後半のものが主体で、同早期、擦文文化期のものもある。定型的な石器は多くないが、青色片岩の剥片が目につく。

長沼町 レプトン川右岸遺跡 (E-17-60)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：夕張郡長沼町字ケヌフチ1442-18外

調査面積：297㎡

調査期間：平成26年6月2日～7月31日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、鈴木宏行、坂本尚史、山中文雄、高橋美鈴

調査の概要

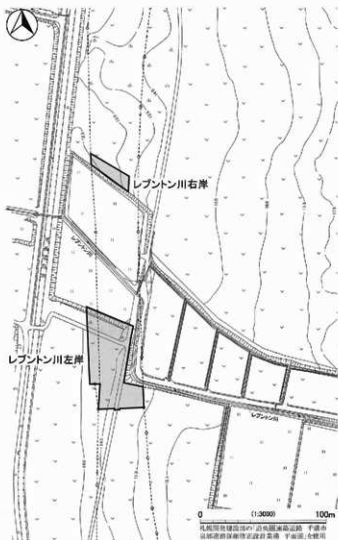
遺跡はレプトン川左岸遺跡の対岸に位置しており、両者の間は幅約120mの沖積低地によって隔てられている。調査範囲の標高は約13mで、現況は畑地である。

基本層序はレプトン川左岸遺跡と同じであるが、低地部を除き地山のⅤ層まで削平されていた。低地部はⅢ層が泥炭質になっており、トレンチで部分的に調査したが、遺物は出土しなかった。

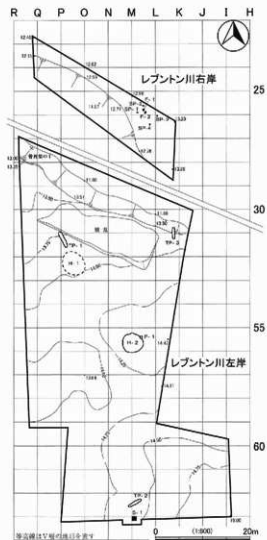
遺構と遺物

遺構は焼土2か所（F-1・2）、柱穴状の土坑（SP-1～4）を検出した。いずれも上部が削平されている。

遺物は縄文時代早期・後期等の土器が約40点、黒曜石の剥片や礫石器等が約40点得られている。



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



レプトン川左岸遺跡 H-1 調査状況



レプトン川右岸遺跡 調査状況

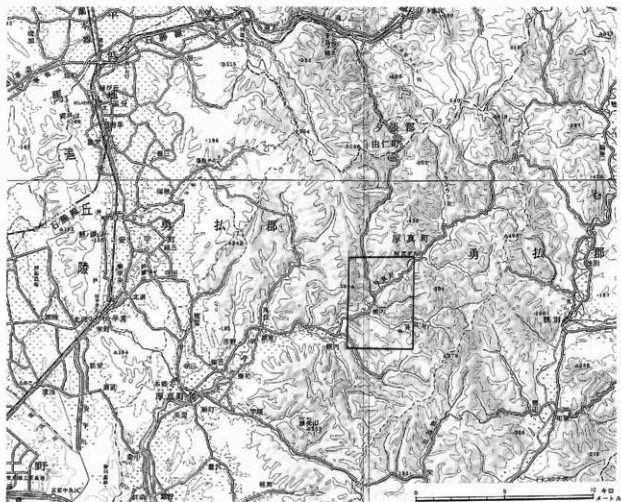
厚真川上流域の発掘調査

厚幌ダムは、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持といった多目的ダムとして北海道胆振総合振興局が建設を進めている。ダム建設に伴う発掘調査は、厚真町教育委員会により平成14(2002)年に厚幌1遺跡から開始されており、昨年までに上幌内モイ遺跡、ヲチャラセナイチャシ・ヲチャラセナイ遺跡、オニキシベ2・4・5・6の各遺跡、ショロマ1・2・3の各遺跡の調査が行われてきた。またダム事業に連動して、厚幌導水路事業が国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部により進められており、これに伴う発掘調査も行われている。

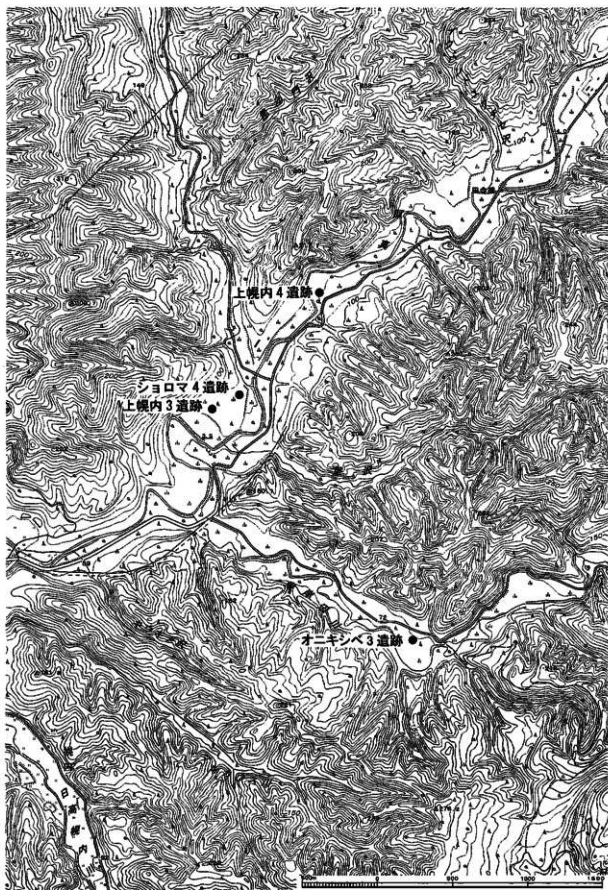
当センターによるダム事業関連の発掘調査は平成24年度のオニキシベ1遺跡から実施しており、昨年度は加えてイクバンドユクチセ2・3遺跡、上幌内3・5遺跡を調査した。今年度は下記の通り、ダム建設事業関連4遺跡の調査を行った。

[厚幌ダム建設事業関連]

- ・オニキシベ3遺跡 (15,020㎡)
- ・ショロマ4遺跡 (4,470㎡)
- ・上幌内3遺跡 (5,980㎡)
- ・上幌内4遺跡 (900㎡)



厚真川上流域位置図 国土地理院発行20万分の1地形図「札幌」〔夕張巻〕を使用



遺跡位置図 国土地理院発行2万5千分の1地形図「厚真川上流」を使用

厚真町 オニキシベ3遺跡 (J-13-78)

事業名：厚真ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内445-1外

調査面積：15,020㎡

調査期間：平成26年5月12日～10月31日

調査員：末光正卓、佐川俊一、奥山さとみ

調査の概要

遺跡は、厚真町市街地から北東へ約12km、厚真川支流の鬼岸辺川右岸、標高約80m前後の段丘上に立地する。調査区はA・B・C地区の3か所に分けた。遺跡全体の調査面積は26,020㎡で、A地区は町道鬼岸辺沢線を含む北側の範囲で調査面積は6,370㎡、B地区は町道から南に広がる平坦～緩斜面の範囲で調査面積は10,090㎡である。C地区は鬼岸辺川に面する一段低い面で、すべて遺構確認調査で調査面積は9,560㎡である。今年度は、B地区の北側部分5,460㎡とC地区全体を調査した。

B地区の基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前bテフラ(Ta-b)層、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ(Ta-c)層、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄色・褐色ローム層、Ⅷ層：樽前dテフラ(Ta-d)層である。C地区ではⅣ層より下位の黒色土がなく、その直下は灰色を呈する水成堆積の粘土層である。

遺構と遺物

B地区の遺構は竪穴住居跡(H)7軒、土坑(P)21基、Tピット(TP)2基、焼土(F)8か所、石組炉(SF)4か所、土器集中(PS)5か所、フレイク集中(FC)3か所、礫集中(S)1か所、炭化物集中(C)2か所、骨片集中(B)1か所を検出した。竪穴住居跡は平面が楕円形で、掘り込みが浅いものも多く、石組炉や地床炉をもつものがみられた。時期は縄文時代後期前葉である。とくにH-2は覆土、床面から多量の礫が出土した。H-6は大きな住居跡で平面が楕円形で長軸が9m、掘り上げ土を含むと12m程の規模になる。住居内からの出土遺物は他の住居跡に比べると極端に少ない。土坑は、平面が円形、楕円形で、覆土や坑底面から礫が出土するものが多い。TP-1は平面形が溝状で竪穴住居跡H-2と重複し、調査の結果、Tピットが古いと考えられる。

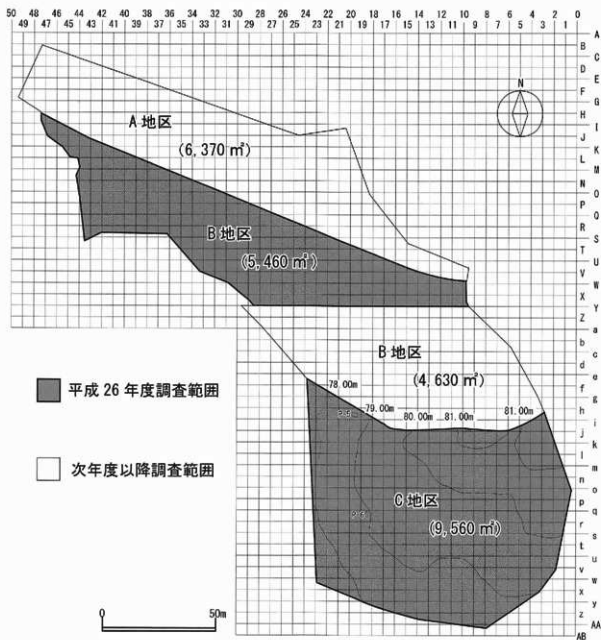
C地区では土坑P-5・6を調査した。ともに平面は楕円形で、覆土はこの地区にはみられないⅤ層黒色土であった。

遺物はB地区では土器約14,100点、石器等が約57,300点出土した。C地区では土器が約1,400点、石器等が約280点出土した。C地区の遺物は灰色粘土層から出土し、二次堆積による移動と考えられる。

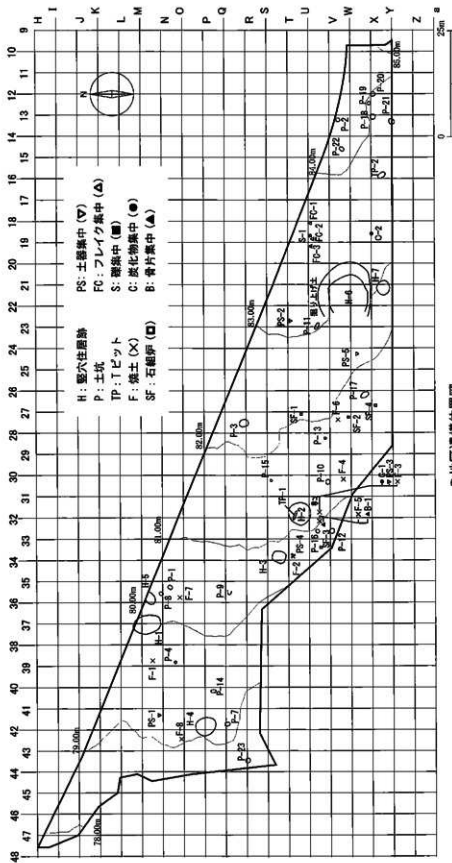
土器は縄文時代後期前葉の余市式、タブコブ式が最も多く、ほかに縄文時代早期、中期のものも出土している。

剥片石器は、黒曜石製の石鏃が多数出土している。礫石器は緑色泥岩製や片岩製の磨製石斧、砂岩製、泥岩製のたたき石、すり石、白石が多い。礫石器・礫は、出土遺物全体の約3/4を占め、これらの石材は、厚真川上流域の山間部で入手でき、堆積岩が多く、被熱したものが多い。

本遺跡は縄文時代後期前葉の余市式期の集落跡と考えられる。



調査範囲図 (C地区遺構位置図)



B地区遺構位置図



B地区 調査状況



H-2 (縄文時代後期前葉)



H-4 (縄文時代後期前葉)



PS-2



S F-1

厚真町 ショロマ4遺跡 (J-13-122)

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内97-1外

調査面積：4,470㎡

調査期間：平成26年5月12日～10月30日

調査員：笠原 興、新家水奈、阿部明義、富永勝也、吉田裕史洋

調査の概要

遺跡は厚真町市街地から北東へ10～11km、ショロマ川と厚真川の合流点付近の標高約65mの段丘上に位置する。昨年度調査を行った上幌内3遺跡のC地区と同じ段丘上にある。また厚真川を挟んで対岸には、今年度厚真町教育委員会の調査によって5基のアイヌ墓が見つかった上幌内2遺跡が位置する。

基本層序はI層：表土、II層：樽前bテフラ (Ta-b)、III層：(上位)黒色土、IV層：樽前cテフラ (Ta-c)、V層：(下位)黒色土、VI層：漸移層、VII層：樽前dテフラ (Ta-d)由来のロームおよび河川堆積層である。

調査区北西側で縄文時代、統縄文時代～アイヌ文化期の遺構・遺物の広がりが見られ、面積を拡張して調査を行った。調査区南側は耕作により、III～V層が削平を受けている部分があった。またV～VII層中に部分的に大量の自然礫が混入している場所があり、Ta-d主体の河岸段丘再堆積層の一部と思われる。

遺構と遺物

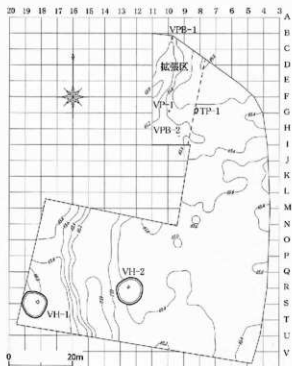
III層からは統縄文時代～アイヌ文化期の平地住居跡8軒、土坑22基、柱穴状小土坑96基、焼土21か所、土器集中12か所、礫集中18か所、獣骨集中5か所などが検出された。平地住居跡の柱穴はいずれも不明瞭で、検出に至らなかったものもあると思われるが、中心となる焼土、棒状礫の出土状況、鉄製品の出土等を踏まえて認定した。調査区北部では擦文文化期のものと思われる浅い土坑墓1基が見つかり、人の歯や耳飾り、刀子などが出土した。シカの歯が多くまとまって出土した獣骨集中は、頭部のみが集められており、周辺の礫集中などと合わせて、一帯が「送り場」として利用された場所であったと思われる。このほか土器集中や礫集中、焼土、柱穴状小土坑等を含む遺構・遺物の集中域を「集中区」とし、8か所を設定した。III層下位からは、統縄文時代のもと思われる長さ20～50cmの砂岩礫が16個並んだ石組炉が出土した。焼土はなかったが、礫はいずれも被熱していた。またこの石組炉から南西に向かって伸びる幅30～40cm、深さ10cm弱、長さ3mと8mの2本の遺跡が検出された。

V層では縄文時代後期初頭の堅穴住居跡が2軒、土坑1基、Tピット1基、土器集中2か所が検出された。住居跡は調査区の南側の沢状地形を挟んで作られ、いずれも石組炉を伴っている。他の遺構は調査区北西域で検出された。

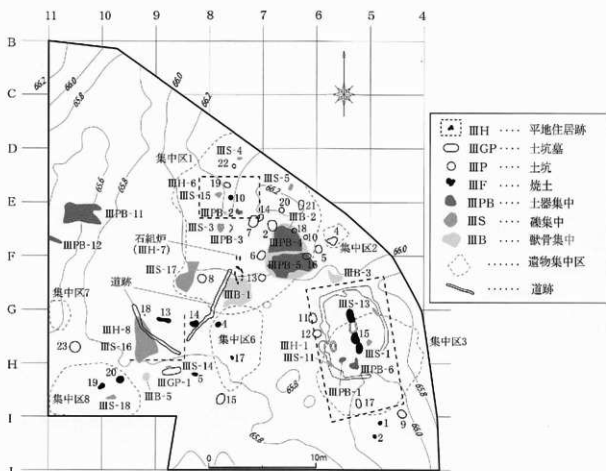
遺物は土器8,676点、石器3,361点、礫7,860点、金属器等48点で、獣骨、炭化物等を含めない総点数は19,945点である。III層の遺物は長楕円体の礫(棒状礫)が多く、III層出土の遺物中礫が58%を占める。他に擦文土器(土器総点数の54%)、統縄文土器(土器総点数の9.7%)、刀子や釘などの鉄製品、たき石、砥石片、片岩の石器片、銅鏡片、獣骨などが出土している。V層の遺物は縄文時代早期～晩期の土器片(後期初頭のもの)が土器総点数の30%、縄文土器3,121点(84%)、黒曜石製の石鏃、石槍、スクレイパー、泥岩製の石斧、くぼみ石等が出土している。また、滑石を研磨した石製品も1点出土している。



III層遺構位置図



V層遺構位置図



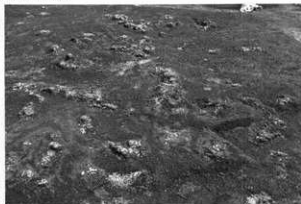
III層遺構位置拡大図



集中区3 遺物出土状況



Ⅲ S-16



Ⅲ B-1



捺文土器出土状況



Ⅲ G P-1



Ⅲ H-1



Ⅲ G P-1 銅製耳飾 出土状況



Ⅲ P-23 遺物出土状況



Ⅲ H-7 石組炉



VH-1



同左 石組炉

厚真町 上幌内3遺跡 (J-13-123)

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内103-1外

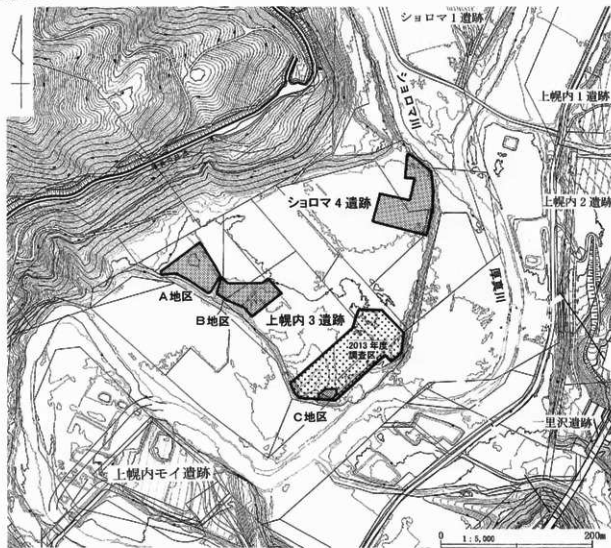
調査面積：5,980㎡

調査期間：平成26年5月12日～10月30日

調査員：笠原 興、新家水奈、阿部明義、富永勝也、吉田裕史洋

調査の概要

遺跡は厚真川右岸、シヨロマ4遺跡と同一の河岸段丘上に位置し、標高は62～64mである。調査区内はおおむね平坦であるが、A地区の東部～南部、B地区との境界に伏流水および沢が流下している。遺跡の東から南に厚真川が大きく蛇行し、低位段丘面をはさんで対岸に上幌内モイ遺跡・ワチャラセナイチャシ跡をのぞむ位置にある。平成25年度にC地区のうち8,545㎡の調査を終了し、縄文時代～アイヌ文化期の遺構・遺物を検出した。今年度はA・B地区の全域およびC地区の未了範囲を調査した。B地区において縄文文化期～アイヌ文化期および縄文時代の遺構・遺物の分布が広がり、さらに調査面積を500㎡拡張した。



調査範囲図

遺構と遺物

[上位黒色土層 (Ⅲ層)]

撥文文化期～アイヌ文化期の遺構・遺物を検出した。遺構は、平地住居跡7軒、土坑墓2基、柱穴状小土坑39基、焼土9か所、土器集中2か所、礫集中5か所、獣骨集中4か所を検出した。遺物は、土器・石器等・金属製品・ガラス製品・漆器・礫は約6,000点が出土した。

土坑墓2基はA地区南部の標高がやや高い位置にある。1号墓(ⅢGP-1)は、径約4mの円形の周溝がめぐりその内側にマウンドをもち、外側に掘り上げ土が浅く堆積する。マウンドの中央付近は浅く陥没していた。墓坑は長軸はほぼ2mの長方形に近い形で、頭部側の幅がやや広い。人骨は頭部や脊椎・腕・脚などの一部が残っていた。頭位は厚真川上流側の北東方向である。頭位方向の周溝中に墓標穴がある。墓の封土上面に吊耳の鉄鍋、周溝の外側に鉋3本が供献され、墓坑内に鎌・刀子・銀製とみられる環状の耳飾2点・ガラス玉2点・漆塗の椀(塗膜のみ)が副葬されていた。これらの遺物などから、成人女性の墓とみられる。

2号墓(ⅢGP-2)は、径1.2mほどの円形土坑で、坑底中央付近からガラス玉および銅銭がおおむねつながった状態で出土した。ガラス玉は青色、白色その他計24点を数え、古銭は12枚すべて北宋銭で、多種の銘がある。人骨は、歯の一部のみがガラス玉に隣接し残存していた。歯は非常に小さいものが含まれ、未成年のものとみられる。

平地住居跡は、炉が1か所で炭化物混じり層・灰層・被熱層の構造をとるものが多く、柱穴は比較的多数確認できた。昨年度のC地区のものよりも新しい段階とみられる。礫集中は、長楕円形の棒状礫が密集するものが多いが、不整形や板状の礫も多く出土する。また小礫片が密集するものがある(ⅢS-4)。獣骨集中はA地区において、平地住居跡の東方で検出した。シカの歯や角など頭部の破片が多く、四肢骨がわずかに散見される。うち一つはシカの上顎骨または下顎骨や角が並び、杭列が隣接する。その位置から、平地住居跡に関連した送り場と考えられる。

「集中区」は、焼土および礫・撥文土器等の各遺物集中を含む集合体を指すが、遺物のみのまともりも含め、B地区中央部において5か所をその範囲とした。刀子類や釘などの鉄製品も含まれる。うち集中区4では、撥文後期の土器に加えて須恵器片(坏)が出土した。

[下位黒色土層 (Ⅴ層)]

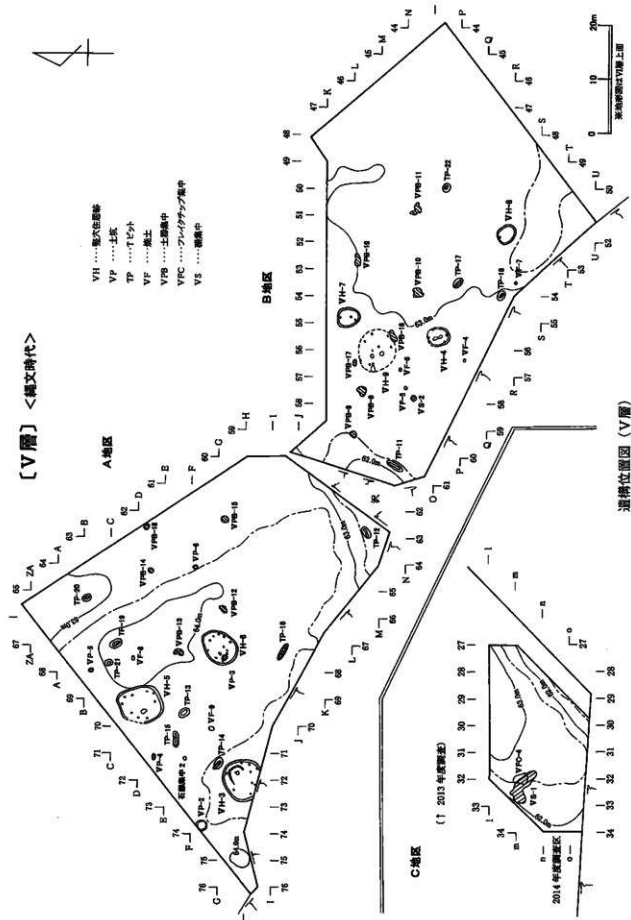
縄文時代早期後葉～後期初頭の集落跡を検出した。遺構は、竪穴住居跡7軒、土坑4基、Tピット12基、焼土6か所、土器集中12か所、石礫集中1か所、フレイクチップ集中1か所、礫集中2か所を検出した。遺物は土器等・石器等・礫、合計約18,000点が出土した。

竪穴住居跡は、縄文時代早期後葉が3軒、中期中葉が2軒、後期初頭が2軒である。早期後葉のものは径3～4mと小型で、おおむね円形で掘り込みが浅い。柱穴は不明瞭である。中期中葉のものは径7～8mとやや大型で楕円形や卵形を呈し、掘り込みがやや深い。後期初頭のもの径8mを超える大型の楕円形で掘り込みが浅く、石組炉をもつ。Tピットは溝状～長楕円形4基、小判形8基を検出し、特に後者は坑底に2～5か所の深い杭跡があるものが多い。A地区北部の沢に仕掛けられたTピット(TP-20)では、坑底に杭そのものが残存していた。

土器は、早期中茶路式・東銅路Ⅳ式、中期萩ヶ岡2～4式・北筒式、後期余市式・タブコブ式がある。A地区およびC地区南部は萩ヶ岡式、B地区は余市式を主体とする。早期後葉の土器も多い。石器は、剥片石器では石鏃、石槍、スクレイパー類が多く、礫石器では石斧片、たたき石(くほみ石)が目立つ。またカンラン岩製・滑石製の石製品が複数出土している。

[V層] <縄文時代>

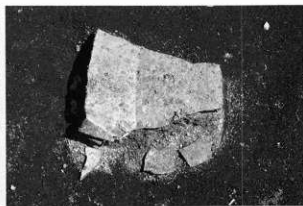
- VH …… 聚穴住居跡
- VP …… 土坑
- TP …… Tピット
- VF …… 埴土
- VFB …… 土器集中
- VFC …… フルイナツブ集中
- VS …… 遺構中



遺構位置図 (V層)



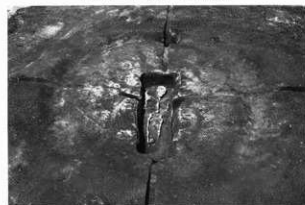
Ⅲ G P-1 検出状況



Ⅲ G P-1 鉄鍋片 出土状況



Ⅲ G P-1 鉞 出土状況



Ⅲ G P-1 墓坑構築面 検出状況



Ⅲ G P-1 人骨 検出状況



Ⅲ G P-2 坑底 検出状況



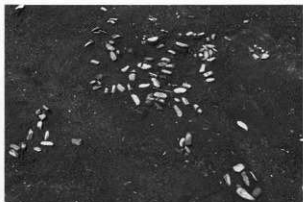
Ⅲ G P-2 副葬品 出土状況



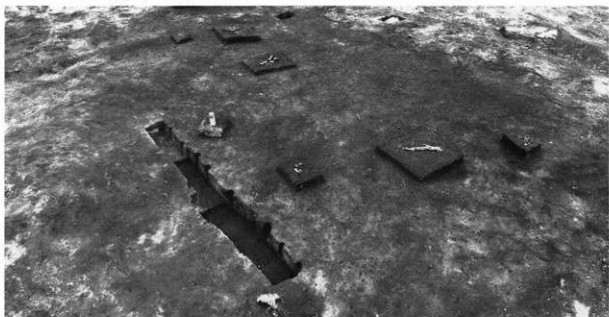
Ⅲ H-12・13 (アイヌ文化期)



I H-1 (近代)



Ⅲ S-9



杭列・鹿角 検出状況



VH-5 (縄文時代後期)



VH-9 石組炉



TP-14 土層断面



TP-20 杭 出土状況



同左 拡大

厚真町 上幌内4遺跡 (J-13-124)

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内368-1

調査面積：900㎡

調査期間：平成26年10月1日～10月30日

調査員：新家水奈、阿部明義

調査の概要

上幌内3遺跡の北東約1.1km、厚真川左岸の段丘上に位置する。調査区の標高は73m前後である。V層上面の調査のみ行った。調査は次年度以降継続予定である。

遺構と遺物

縄文時代中期～後期の土器片と、黒曜石の石鏃やフレイクが出土している。



調査範囲と周辺の地形 (調査区内等高線はV層上面)



調査状況



V層上面検出

根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群 (N-01-1)

事業名：根室半島線 (B改-153) 交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道釧路総合振興局

所在地：根室市豊里96-1地先～96-8地先

調査面積：2,760㎡

調査期間：平成26年8月18日～10月31日

調査員：村田 大、愛場和人、広田良成

調査の概要

遺跡は根室半島東端の納沙布岬から西へ5km程、オホーツク海に面するトーサムボロ湖周辺に位置する。トーサムボロ湖は北側に湖口がある周囲延長3.3kmの汽水湖で、周囲の標高約5～30mの台地には縄文時代早期からオホーツク文化期、擦文文化期の堅穴が2,000か所以上存在するとみられる。本遺跡は古くから知られており、昭和39年以降、北構保男氏、東京教育大学 (現筑波大学)、北地文化研究会などにより、堅穴分布調査や縄文時代前期・縄文時代晩期・オホーツク文化期の堅穴住居跡などの発掘調査が行われている。

当センターでは、平成21年度～平成23年度に道道根室半島線の改良工事に伴い、湖口西岸段丘部分 (A地区) と、東岸段丘部分 (B地区) の発掘調査を行った。今年度の調査区はB地区の過年度調査区北側の道路下部分にあたる。地形は高位段丘縁辺の平坦面で、標高は約19～21mである。

基本土層は0層：表土、I層：黒色土、II層：灰白色火山灰を含む黒褐色土、III層：黒色土～黒褐色土、IV層：摩周テフラ (Ma-i と j)、V層：黒色土、VI層：黄褐色ロームである。II層の灰白色火山灰は上下2枚に分かれ、上位は樽前a降下火山灰 (1739年降下)、下位は駒ヶ岳c₂降下火山灰 (1694年降下) とみられる。今回はIII層について調査を行った。

遺構と遺物

今年度検出した遺構は、堅穴住居跡11軒 (H-19～29)、土坑32基 (P-26～57)、焼土5か所 (F-1～5)、フレイク集中3か所 (FC-3～5) で、過年度調査のH-17・18の北側部分についても調査した。遺構は調査区の46～75ラインにかけて密集して分布し、重複もみられる。遺構の時期は、縄文時代前期前半が多く、ほかに縄文時代中期末～後期初頭、縄文時代早期後半がある。

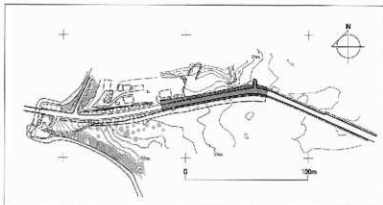
堅穴住居跡は、平面形が隅丸長方形で長径7m以上の大型のもの、平面形が多角形・円形で直径2～6mの小型なものがある。また半数程が焼失住居である。土坑は平面形が円形、楕円形、不整形で、遺物は北筒式土器が伴うものや礫がまとまってみられるものがある。P-37では坑底から北筒式土器が横倒しの状態で検出し、周辺や土器内から黒曜石製の石槍・ナイフが出土した。

遺物は、土器約3,600点、石器約36,000点 (水洗選別含む) が出土した。土器は縄文時代早期の中茶路式土器、縄文時代前期の押型文尖底土器、縄文時代中期末から後期初頭の北筒式土器があり、押型文尖底土器が多く出土した。石器等は黒曜石製のフレイクが最も多く出土し、他に石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、砂岩製砥石・石鋸などがある。

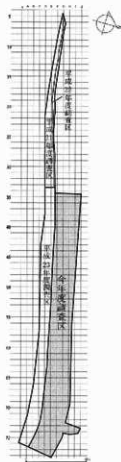


遺跡位置図

国土院の地図データ：20万
7日本：1』（平成20年）を引用

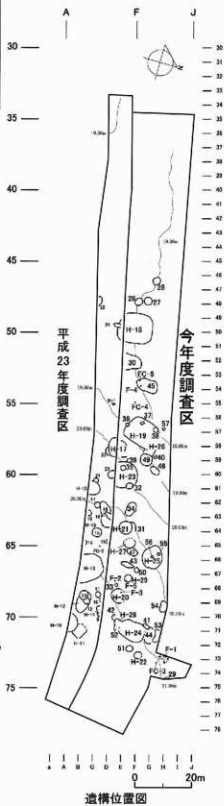


今年度調査区と周辺の地形



B地区年度別調査区

- 凡例
 H: 竪穴住居跡
 O: 土坑(数字のみ)
 F: 竊土
 FO: フレイク集中





調査区全景



H-19



H-24 炭化材 検出状況



H-24 遺物出土状況



H-25 遺物出土状況



P-37 遺物出土状況



P-45

木古内町 大平4遺跡 (B-05-29)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋藏文化財発掘調査 (大平4遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局面館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字大平60-5、15、144、194～198

調査面積：7,119㎡

調査期間：平成26年5月14日～8月6日

調査員：皆川洋一、立田 理、佐藤和雄、谷島由貴

調査の概要

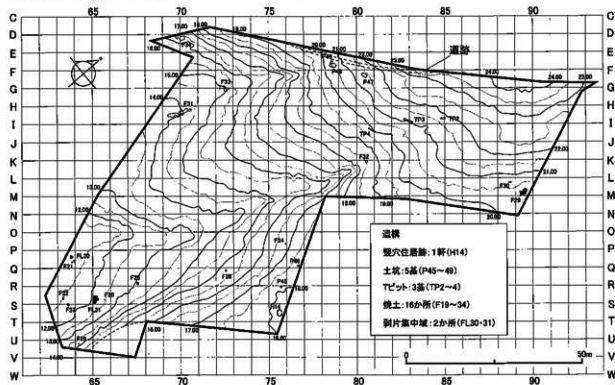
遺跡はJR木古内駅から北東へ約2kmに位置する。津軽海峡に面する海岸線から500m内陸の海成段丘上に立地し、調査区周辺の地形は標高14～23mの海に向かう緩斜面となっている。

過去に4回の調査があり、平成21・22年度に北海道新幹線建設事業、平成24・25年に函館江差自動車道の調査が行われている。検出遺構の総数は、竪穴住居跡13軒、土坑44基、Tピット1基、剥片集中域29か所、焼土18か所である。今年度の調査は、平成25年度の調査区の町道を挟んだ隣接地であり、これまでの調査のうち最も北側に標高の高い位置にあたる。

遺構と遺物

今年度の調査の結果、遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑5基、Tピット3基、焼土16か所、剥片集中域2か所が検出された。竪穴住居跡は小型であるが、方形の石組炉をもち卵形の平面形を呈する縄文時代中期後半のものである。土坑の内2基は、調査区北側の道路跡に沿って並んで検出されている。長軸1.5～1.9mの隅丸方形を呈するものである。そのうち1基(P-48)の坑底付近からは木製品など21点が出土し、中にはマッチ軸5本、箱館戦争時とみられるブリチエット弾1発がある。

遺物は未集計であるが、総点数で約3,700点出土している。土器は縄文時代後期前葉のものが大半で、早期後半、中期後半も若干出土している。石器は各時期のものが出土している。



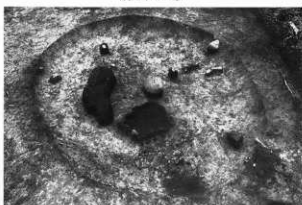
遺構位置図



遺構位置図



調査区遠景



H-14



T P-3



P-48 土層断面



P-48 坑底木製品出土状況

木古内町 亀川5遺跡 (B-05-54)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査 (大平4遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字亀川220-2、227-2

調査面積：6,474㎡

調査期間：平成26年7月22日～10月30日

調査員：皆川洋一、立田 理、佐藤和雄、谷島由貴

調査の概要

遺跡は、津軽海峡に面するサラキ岬の内陸1kmに位置する。岬の西側に亀川が流れており、調査区はその左岸にあたる。調査区周辺は標高80m前後の丘陵地もしくは海成段丘の可能性のある緩斜面であり、調査区は北東、南西側の両端と中央海側に向かって傾斜する地形となっている。

遺跡の基本土層は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：褐色土、Ⅲ層：黒褐色土、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色土である。Ⅱ層とした褐色土は白頭山-苫小牧火山灰 (B-Tm) の可能性がある火山灰が認められる部分がある。遺物は主としてⅢ層から出土している。

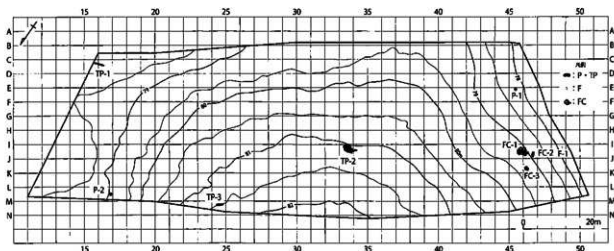
遺構と遺物

遺構は、土坑 (P) 2基、焼土 (F) 1か所、Tピット (TP) 3基、剥片集中域 (FC) 3か所が検出された。

土坑のうち1基、焼土、剥片集中域は、調査区南西側の亀川に向かう斜面上に位置している。Tピットは調査区中央から北東端に分布し、互いに40mほどの距離を保って独立して検出されている。なお、剥片集中域は頁岩、珪化岩の石材を使用している。遺跡は石器石材となりうる頁岩、珪化岩の分布範囲内にあることから、周囲で採取した石材を遺跡内で石器へ加工したとみられる。

遺物は1,048点出土した。内訳は土器が138点、石器等が910点である。

土器は縄文時代後期前半の涌元式に相当するとみられるものが95点、晩期中葉の聖山Ⅱ式に相当するとみられるものが43点出土している。石器は石鏃3点、スクレイパーが19点、つまみ付きナイフ5点のほか、フリイクが817点出土している。礫石器は極めて少なく、たたき石1点となっている。



遺構位置図



調査区南西側 調査状況



F C-1 調査状況



T P-1

木古内町 札刈7遺跡 (B-05-50)

事業名：高規格幹線道路路館江差自動車道工用地内埋蔵文化財発掘調査 (大平4遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局路館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字札刈576-11、578-11・12、576-13

調査面積：1,295㎡

調査期間：平成26年5月15日～10月31日

調査員：立川トマス、芝田直人、直江康雄、渡井 暁

調査の概要

遺跡はJR札刈駅より北へ約500mに位置し、海岸に沿う低位の段丘と後背の丘陵地形との境に立地している。沢を挟み東側は平成23年度に調査した札刈6遺跡に隣接し、南西へ約700m海側には北海道における亀ヶ岡文化研究の嚆矢となった縄文時代晩期の札刈遺跡がある。

今年度調査範囲は丘陵から流下する沢に開析された、南向きの標高20～30mのやや急な斜面である。南東方向へ下る2筋の深い沢は、札刈6遺跡側の別筋の沢と合流し、遺跡南側で平坦な氾濫原を形成する。これらの沢および氾濫原は牧草地造成のため埋め立てられており、遺物包含層(Ⅲ・Ⅳ層)は地表面より2～3m下である。さらにその下部は透水層を挟む厚い砂礫が堆積している。

基本層序はⅠ層:表土、Ⅱ層:黒色土、Ⅲ層:暗赤褐色土、Ⅳ層:黒色土、Ⅴ層:漸移層、Ⅵ層:黄褐色ローム。調査区内は杉の植林によりⅡ～Ⅲ層にかけて攪乱を受けている。竪穴住居跡やフラスコ状土坑などの遺構の覆土上位や沢地形の内部ではⅡ層中に胸ヶ岳d火山灰(Ko-rd)、Ⅲ層上面に白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)の堆積が見られる。

昨年度は遺跡中央～西側の10,690㎡を調査した。竪穴住居跡12軒、土坑44基、焼土9か所、剥片集中4か所が検出され、土器・石器等約34,000点が出土している。遺構・遺物の主な時期は、縄文時代後期前葉天祐寺式期・トリサキ式期、同後期後葉堂林式期である。

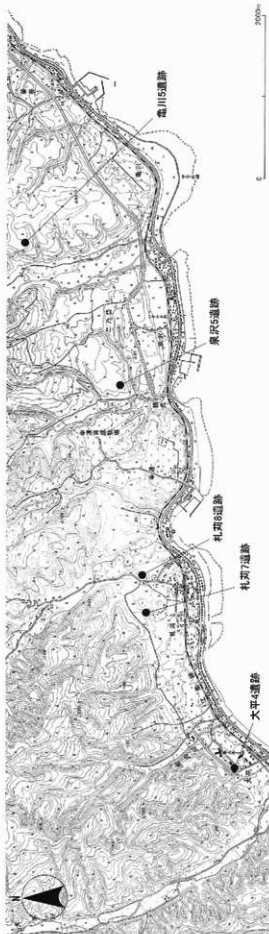
遺構と遺物

今年度、遺構は竪穴住居跡(H)12軒、土坑(P)121基、小土坑(SP)13基、焼土(F)8か所、集石(S)1か所、遺物集中1か所、埋設土器2か所を検出した。

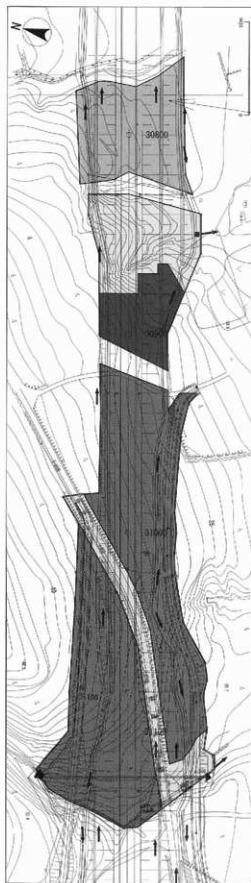
竪穴住居跡は南向きの斜面に縄文時代後期後葉、堂林式期のもの9軒、北側のやや平坦な段丘縁辺部に同中期前半ごろと考えられるもの3軒を検出した。

縄文時代後期後葉の竪穴住居跡は昨年度と同様に、規模、形態などから2つの群に分けられる。1つは平面形が確認面で楕円形、長軸が5～6mのもので、7軒検出された。これらは斜面上に構築されているため、上位側の壁面が垂直または傾斜しており、下位側の壁面は立ち上がり緩やかになっている。また、床面は下位側(南側)の一部を掘り残してくぼませ、平面形が空豆形になるものが多い。床面の中央付近に地床炉を有し、その周囲に柱穴が2～6基配されている。掘り込みの外側に柱穴や出入口構造と考えられる溝状遺構は確認されなかった。床面に段差が見られ、地床炉の形成面からいわゆる「貼り床」されたと考えられるものもある。床面からは、堂林式相当の鉢、深鉢、注口土器、ミニチュア土器、剥片石器類が出土した。もう1つは平面が円形に近く、直径が3～4m程度のもので、2軒検出された。覆土下位から床面にかけて炭化材・焼土が多量に出土しており、焼土住居と考えられる。掘り込みは比較的浅く、床面の中央付近に小規模な地床炉が設けられている。柱穴は壁際に2基もしくは確認されなかった。遺物は少ない。これらの住居群は同規模の竪穴住居跡が2軒対になって、ほぼ同じ標高の面に並ぶ配置が見られる(H-14と15、H-16と17、H-19と20など)。

土坑は竪穴住居跡と同じく南向きの斜面に密に分布しており、南東へ向かう沢に面したやや急な斜面



遺跡位置図

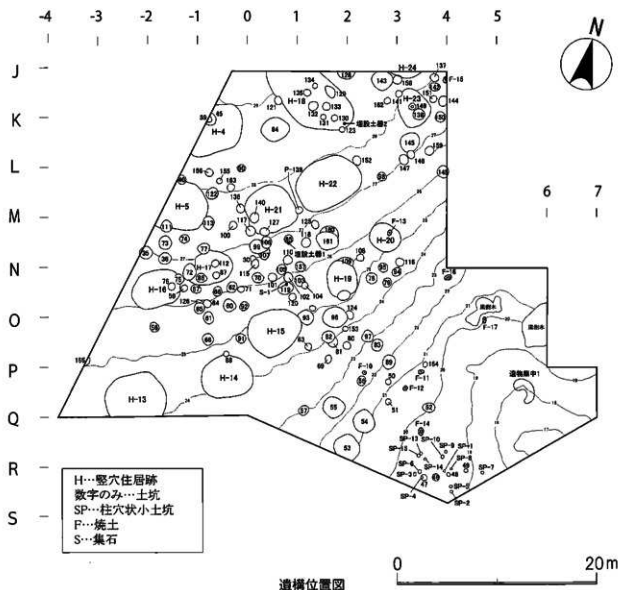


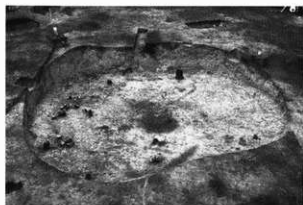
周辺の地形と遺跡の位置

- 平成26年度調査範囲
- 平成27年度以降予定調査範囲
- 札河6遺跡(平成23年度調査区域)
- 札河5遺跡(平成23年度調査区域)

では疎らになる。規模・形態により主に、①深さと坑底面の径が1.5～2mほどの大型のフラスコ状土坑、②深さと坑底面の径が1m前後の小型のフラスコ状土坑、③深さが50cm、坑底面の直径が1mほどの円形土坑、④深さが30cm以下の浅い皿形土坑、などに分けられる。遺物を伴うものは少ないが、縄文時代中期前半サイベ沢Ⅱ式、同中期後半榎林式、同後期中葉ウサクマイC式の土器や、台石・石皿、すり石などの礫石器類が出土している。重複関係や出土遺物などから、縄文時代後期後葉の竪穴住居跡より古いものが大半で、時期は同中期前半～後期中葉にわたると考えらる。

遺物は土器・石器等約50,000点が出土した。土器は縄文時代早期～晩期で、同後期後葉の堂林式が最も多く、同中期前半のサイベ沢Ⅱ式がこれに次ぐ。このほか、同中期後半の榎林式、同後期前葉のトリサキ式、同晩期中葉の大洞C₂式なども出土している。出土分布は竪穴住居跡群とほぼ同じで、南向きの斜面に堂林式、北側の平坦部にサイベ沢Ⅱ式がままとっている。南東向き沢へ向かう急斜面は榎林式、トリサキ式が多い。大洞C₂式は竪穴住居跡の覆土上部よりわずかに出土した。石器は石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石核、石斧、すり石、たたき石、台石・石皿などがある。





H-15 (縄文時代後期後葉)



P-54 土層断面



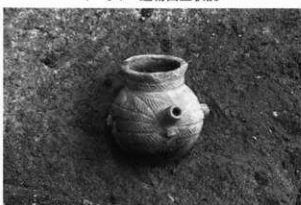
H-14 床面 遺物出土状況



P-54 遺物出土状況



H-18 (縄文時代中期前半)



P-117 遺物出土状況



P-145 遺物出土状況

木古内町 札苅 8 遺跡 (B-05-56)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査 (大平 4 遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字札苅 723-6・7

調査面積：832㎡

調査期間：平成 26 年 5 月 15 日～8 月 8 日

調査員：村田 大、愛場和人、広田良成

調査の概要

遺跡は木古内町市街地から北東約 5km に位置する。標高は約 11～14m で、幸連川支流右岸の河岸段丘上に立地し、町道を挟んだ西側には平成 23 年度に発掘調査を行った札苅 5 遺跡が位置する。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗赤褐色土、Ⅳ層：黒褐色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色ロームである。遺物の主な包含層はⅣ層である。調査範囲内は広く削平されているため、Ⅰ～Ⅲ層の残存する場所は少ない。また、主に斜面部のⅡ層中～下位で、駒ヶ岳 d 降下火山灰 (K_{o-d}:1640 年降下)、白頭山-苫小牧火山灰 (B-T_m:10 世紀降下) の部分的な堆積を確認した。調査区は平坦部と急斜面 (崖) 部からなり、遺構は主に平坦部で検出された。遺構の主な時期は縄文時代前期後半である。隣接する札苅 5 遺跡では、ほぼ同時期の堅穴住居跡、焼土などが検出されているため、両遺跡は関連している可能性が高い。

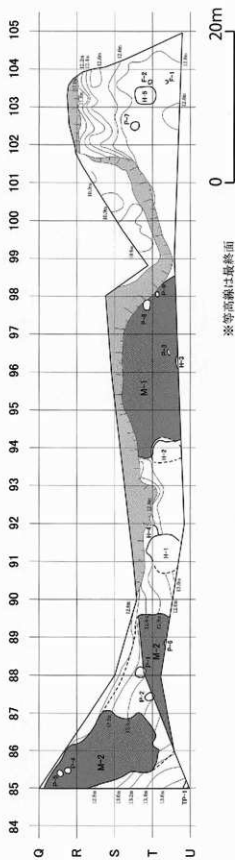
遺構と遺物

遺構は盛土遺構 2 か所、堅穴住居跡 5 軒、土坑 9 基、Tピット 1 基、焼土 2 か所である。時期は縄文時代前期後半が多く、後期前半のものもある。盛土遺構は縄文時代前期後半の時期で、調査区中央付近の平坦面で 1 か所 (M-1) と調査区西側の緩斜面で 1 か所 (M-2) 検出された。共に調査区外南側に広がるため、今回の調査は部分的なものである。M-1 の調査範囲内での規模は長さ約 20m、幅約 4m、層厚は最大約 0.6m で、付属遺構として焼土 8 か所、土器破片集中 40 か所、フレイク集中 16 か所がある。M-2 は削平のため、見かけ上 2 か所に分かれている。調査範囲内の規模は長さ約 20m、幅約 15m、層厚は最大約 0.3m で、付属遺構として焼土 3 か所、土器破片集中 2 か所、フレイク集中 4 か所がある。堅穴住居跡の時期は多くが縄文時代前期後半と推定されるが、後期前半が 1 軒 (H-2) ある。また、盛土遺構 (M-1) を掘り込んで構築するものが 1 軒 (H-3) みられる。土坑は盛土遺構の範囲に構築されるものが多く、3 基 (P-3・8・9) が M-1 と、5 基 (P-1・2・4・6) が M-2 と重複する。土坑の時期は多くが縄文時代前期後半と推定され、盛土遺構を掘り込んで構築されるものもある。焼土は調査区東側で 2 か所検出され、時期は周辺出土の遺物から縄文時代後期と考えられる。

遺物は、土器が約 80,000 点、石器等が約 90,000 点で合計約 170,000 点出土した。また、盛土内のフレイク集中などの土壌水洗選別でフレイクなどを約 120,000 点回収した。土器の時期は縄文時代早期～後期で、その中では前期後半の円筒土器下層 c・d 式が最も多く、盛土遺構から多量に出土した。石器等ではフレイクが最も多く、石核もまとまって出土している。剥片石器では、石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、つまみ付きナイフ、トランシェ様石器など、礫石器では、磨製石斧、たたき石、扁平打製石器などがみられる。また、Ⅳ～Ⅵ層などから後期旧石器が少数出土した。石器集中部や遺構などは検出されていない。器種は美利河型細石刃核、削片、石刃などがある。



M: 盛土遺構
 H: 竪穴住居跡
 P: 土坑
 TP: TPピット
 F: 焼土
 ■: 盛土遺構範囲
 □: 崖部分



遺構位置図



調査状況



M-1 調査状況



M-1 調査状況



M-1 遺物出土状況



M-1 土器出土状況



M-1 フレイク集中 検出状況



M-2 調査状況



M-2 石器出土状況



H-2



P-8

木古内町 泉沢5遺跡 (B-05-55)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査 (大平4遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字二乃岱42-4・5、43-2、47-2、48-3・4、49-4、55-2、56-2・3、57-2、58-3

調査面積：8,984㎡

調査期間：平成26年9月1日～10月30日

調査員：袖岡淳子、直江康雄、佐藤和雄、谷島由貴、渡井 瞳

調査の概要

遺跡は木古内市街の北東約6km、JR泉沢駅の北西850m、現橋呉川河口より500m程内陸に位置し、東西を亀川と橋呉川に挟まれた標高30～40m程度の海岸段丘上に立地している。同一段丘面上には南側に木古内町教委が調査した泉沢2遺跡があり、本遺跡との間は橋呉川と合流する東西方向の支流によって区切られている。調査区は北東-南西方向に細長い範囲で長さは300mを超える。調査区内には向きの異なる二つの沢地形が東西にあり、遺構・遺物の出土状況によって①東側の沢に面した東向きの緩斜面(15～20ライン)、②二つの沢に挟まれた平坦面(30～40ライン付近)、③西側の沢に面した西向きの斜面(45～50ライン付近)、④西側の沢と調査区西端の橋呉川に面する急斜面に挟まれた舌状の台地(55～60ライン付近)に区分できる。

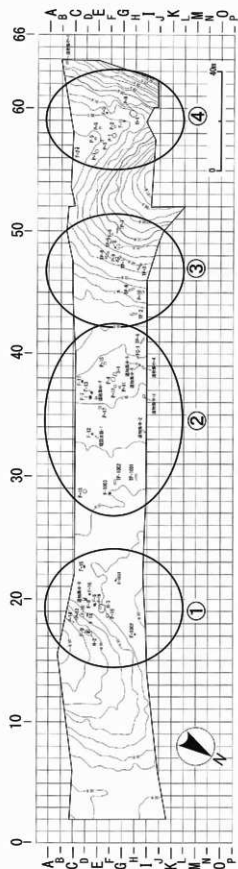
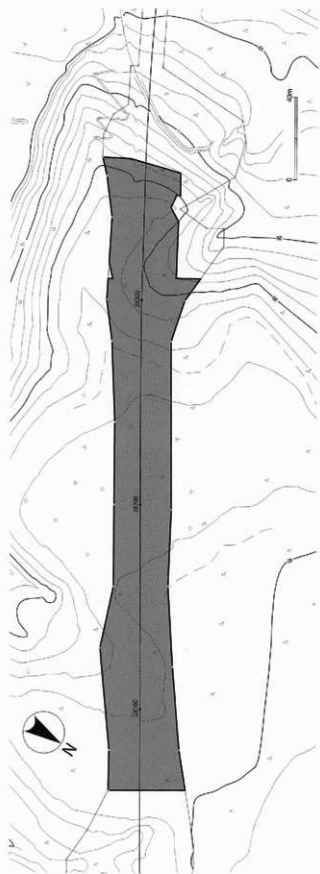
基本土層は、I層：表土、II層：黒色土層、III層：暗赤褐色土層、IV層：黒色土層、V層：暗褐色土層(漸移層)、VI層：黄褐色ローム質土層である。また部分的ではあるが、遺構などのII層下部に灰褐色の駒ヶ岳d火山灰(Ko-d)、III層上面に黄褐色の白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)が薄く堆積している。遺物包含層はIII～V層で、大半はIII・IV層から出土している。

遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡(H)3軒、土坑(P)19基、Tピット(TP)10基、焼土(F)19か所、埋設土器1か所、遺物集中8か所、フレイクチップ集中(FC)1か所、礫集中(S)1か所を確認した。地点によって遺構の種類と集中する度合いが異なる傾向がみられた。前述の地点①・④に竪穴住居跡、土坑、焼土等があり、地点②に遺物集中が多く土坑、焼土もあり、地点③からTピットがまとめて検出されている。

竪穴住居跡はいずれも長径が2m程度の小規模なものであった。地点①で検出されたH-2・3は縄文時代中期前半の円筒土器上層式期とみられる。またH-2は覆土上位に焼土(F-9)があり、覆土下位には炭化物を多く含む層がみられた。これらの住居跡と200m程離れた地点④のH-1は隅丸方形であった。柱穴や炉跡等は確認されていないが、覆土中に縄文時代後期前葉の土器片を含む土坑(P-8)が掘り込まれており、それ以前に構築されたものと判断できる。土坑は深さ1m前後のフラスコ状のものが多く、地点④のP-1覆土中央部からは大型の台石が出土している。Tピットはいずれも溝状で、長軸が2m前後、深さ1～1.5m程度であった。地点③では標高32m付近にTP-1・3・8が斜面方向と平行して10m前後の間隔で配列していた。焼土の内、地点②で確認されたF-7・13は周囲の半分に転礫を巡らせており、石組炉であった可能性が高い。

遺物は土器・石器・礫等が約15,000点出土した。土器は主に地点①に多い。縄文時代中期～後期のものがあり、特に中期前半の円筒土器上層式や後期前葉の天祐寺式相当が多くみられた。石器は石磯、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、台石・石皿などがある。本地域は頁岩地帯という地理的状況を背景としているため、石器石材として頁岩が大多数を占めている。





調査区全景



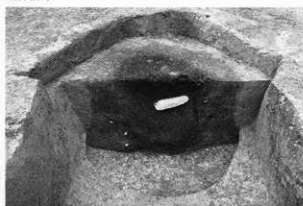
西側沢地形部 調査状況



H-2 土層断面



H-3 遺物出土状況



P-1 土層断面



F-13 土層断面



土器出土状況（縄文時代後期）

3 現地研修会の報告

平成26年9月4日(木)は余市町、5日は余市町からさらに千歳市に場所を移動して、現地研修会を行った。

4日余市町での研修は北海道立埋蔵文化財センターの指定管理業務「市町村担当職員出前研修会」との合同開催である。今回の市町村担当職員出前研修会は、「遺跡・遺物の公開活用」のシリーズ化のうち、後志地方や特に余市町での埋蔵文化財の発掘調査とその歴史、埋蔵文化財の活用や保護意識の啓発の取り組み、史跡整備活動について受講し研修を積むこととした。講義は余市町中央公民館と余市水産博物館に会場を設けて行った。

最初の講義は、元道教委文化財保護主事で前倶知安風土館館長の矢吹俊男氏による「後志の埋蔵文化財」で、「考古学とは何をする学問だろう」という問いかけの下、後志地方での主な考古学的調査の歴史と調査内容が示され、現代まで通じる考古学の道筋が説かれた。次に余市町教育委員会余市水産博物館長乾芳宏氏による「余市町の埋蔵文化財」では、余市町での考古学的調査の歴史と調査内容が時系列的に示され、埋蔵文化財包蔵地が増加していく過程と主な遺跡が紹介された。さらに次の講義「余市町大川遺跡」においては、近年継続的に調査された縄文～近代の代表的遺跡である大川遺跡と入船遺跡の成果が、注視すべき遺構・遺物を主軸にしてわかりやすく解説された。場所を余市水産博物館に移した開催中の「考古遺物が語る余市の歴史」を主体とした見学では、旧石器から近代にわたる余市・後志の埋蔵文化財の代表格を観察することができた。次いでバス移動し発掘調査中の余市町登町4遺跡を見学。発掘調査担当の余市町教委小川康和氏や調査員花田直彦氏らに遺跡・遺物の説明をいただいた。多忙な中、会場設定や講義・解説の対応をしていただいた矢吹・乾・小川・花田各氏や現場調査員に深く感謝いたします。

5日の当センターの職員研修では、はじめに保存整備され公開されている余市町の国指定史跡フゴッベ洞窟と周辺のフゴッベ貝塚を余市水産博物館長乾芳宏氏の案内・解説のもと見学。史跡整備の一例を研修した。次にバス移動し午後から、千歳市で行っている当センター調査の遺跡2か所の見学を行った。ひとつ目はトブシナイ2遺跡で、担当の鈴木主査の解説で、川岸の斜面から川面付近の低位部に至る遺跡の調査状況や遺物を見学した。来年度の同遺跡を含んだ周辺の遺跡に対応する調査についても説明があった。2か所目の根志越5遺跡へ向かう車窓から、国指定史跡キウス周堤墓群や、調査を終えたキウス3遺跡を観察しながら移動。根志越5遺跡は、旧千歳川の低位氾濫原にある遺跡で全域が浸水するため、鋼矢板とウェルポイント・ベルトコンベアを稼働させた調査を行っている。担当の鈴木課長の案内で調査状況、出土遺物や調査中の住居跡などを見学した。来以降継続調査の見通しや説明もあった。

以下、研修会の日程を示す。

9月4日(木) J R小樽駅前 集合

余市町中央公民館・水産博物館 講義・見学

余市町登町4遺跡および発掘調査事務所 見学

余市町 情報交換会・宿泊

9月5日(金) 余市町国指定史跡フゴッベ洞窟ほか 見学

千歳市トブシナイ2遺跡見学(当センター調査遺跡)

千歳市根志越5遺跡見学(当センター調査遺跡)

J R札幌駅 解散



矢吹俊男氏 研修 1



乾 芳宏氏 研修 2



余市水産博物館見学 研修 3



市町村出前研修会記念写真



余市町登町 4 遺跡見学



余市町フゴッペ洞窟見学



千歳市トブシナイ 2 遺跡見学



千歳市根志越 5 遺跡見学

4 協力活動及び研修

(1) 協力活動（日付は平成26年のもの）

ア 発掘現場見学

- *木古内町 大平4遺跡・札苅7遺跡・札苅8遺跡
6月17日 木古内町文化財調査委員、木古内町教育委員会職員 遺跡見学（10名）
- *千歳市 トブシナイ2遺跡
7月25日 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター
平成26年度文化財普及啓発事業体験学習会「縄文の旅」体験発掘（40名）
- *千歳市 トブシナイ2遺跡・根志越5遺跡
8月30日 2014年北海道考古学会 遺跡見学会（60名）
- *木古内町 亀川5遺跡
9月3日 秋田県北秋田市立鷹巣西小学校6年生 遺跡見学・体験発掘（11名）
- *千歳市 トブシナイ2遺跡・根志越5遺跡
厚真町 上幌内3遺跡・ショロマ4遺跡
9月21日 平成26年度恵庭市郷土資料館 遺跡見学会（35名）
- *木古内町 札苅7遺跡・泉沢5遺跡
9月23日 南北海道考古学情報交換会 遺跡見学（15名）
- *千歳市 トブシナイ2遺跡
9月25日 NPO法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク
平成26年度まちめぐりガイド事業 遺跡見学（30名）
- *厚真町 上幌内3遺跡・ショロマ4遺跡・オニキシベ3遺跡
10月17日 釧路考古学研究会 遺跡見学（5名）

イ 委員会等の会議

- *全国埋蔵文化財法人連絡協議会
5月15・16日 第1回役員会（富山県富山市 坂本（均）・中田・礪田）
6月19・20日 平成26年度総会（岩手県盛岡市ほか 坂本（均）・和田・千葉・湯田）
7月17・18日 コンピュータ等研究委員会（新潟県新潟市ほか 中田・三浦・倉橋・作田）
10月23・24日 北海道・東北地区会議（福島県会津若松市 中田・和田・葛西・倉橋）
11月25日 全国埋蔵文化財調査情報交換会（東京都 和田・菅野）
11月27・28日 平成26年度研修会（奈良県奈良市 小笠原・小杉・鈴木（宏））
- *北海道文化財保護協会
9月30日 第2回役員会（札幌市 千葉）

ウ 調査指導および講演会等の講師

- *千歳市教育委員会埋蔵文化財センター
2月10日 オサツ8遺跡報告書作成のための遺物撮影指導（千歳市 菊池）
- *東京大学大学院人文社会系研究科
2月14～16日 『環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明』研究集会（東京都 富永）

*北海道考古学会

5月10日 2014年度研究大会「盛土遺構を掘る」北海道大学
(札幌市 阿部・大森司・影浦・福井)

*北海道用地対策連絡協議会道央地区部会

7月3日 平成26年度定例総会「埋蔵文化財の調査」講師(札幌市 土肥)

*千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

8月2日 平成26年度文化財普及啓発事業体験学習会「石器をつくろう!」
講師(千歳市 直江)

*海洋考古学会

9月13・14日「釧路周辺の銚頭と海獣糞の変遷」【第5回海洋考古学会
寒暖流の考古学Ⅱ 海の狩人—北のアザラシ・南のクジラー】福岡大学(福岡市 福井)

*日本考古学協会

10月11・12日 日本考古学協会2014年度大会 だて歴史の杜カルチャーセンター
(伊達市 土肥・阿部・福井・冨永)

*木古内町教育委員会

11月5日 公民館教養講座「木古内ゼミナール平成26年度の発掘成果から」
講師(木古内町 皆川)

*南北海道考古学情報交換会

12月6・7日 南北海道考古学情報交換会(北斗市 芝田・直江・立田・福井)

*北海道考古学会

12月13日 平成26年度遺跡調査報告会(札幌市 阿部・芝田)

*余市町教育委員会

12月19日「登町4遺跡・登町13遺跡出土遺物の分類・鑑定」(余市町 立田・熊谷)

(2) 研修(日付は平成26年のもの)

ア 外部研修

*文化庁

2月5～7日 平成25年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会
(栃木県宇都宮市ほか 今本・高橋・奥山)

9月3～5日 平成26年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会
(青森県青森市ほか 和田・菅野・今本)

*国立文化財機構奈良文化財研究所

6月16～20日 文化財担当者専門研修「植物遺体調査課程」(福井)
9月29日～10月3日 文化財担当者専門研修「遺跡測量課程」(山中)

*北海道教育委員会

2月13日 平成25年度アイヌ文化財専門職員等研修会(札幌市 三浦・田口・佐藤(和))

イ 内部研修

*平成26年度現地研修会

9月4・5日(余市町・千歳市 13名)

*平成26年度発掘調査報告会

11月26日(センター研修室)

5 平成26年度刊行報告書

- 第310集【北斗市 当別川左岸遺跡】
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第311集【白滝遺跡群XIV 遠軽町 旧白滝3遺跡】
旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査業務報告書
- 第312集【北斗市 押上1遺跡】
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第313集【厚真町 朝日遺跡】
道道上幌内早来停車場線埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第314集【せたな町大成区 都遺跡】
道道北檜山大成線（地交-68）工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第315集【遠軽町 金山6遺跡】
旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第316集【湧別町 シブノツナイ2遺跡】
一般国道238号湧別町紋別防雪工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第317集【根室市 トーサムボロ湖周辺竪穴群（1）】
根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第318集【厚真町 オニキシベ1遺跡】
厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第319集【厚真町 イクバンドユクチセ2遺跡】
厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

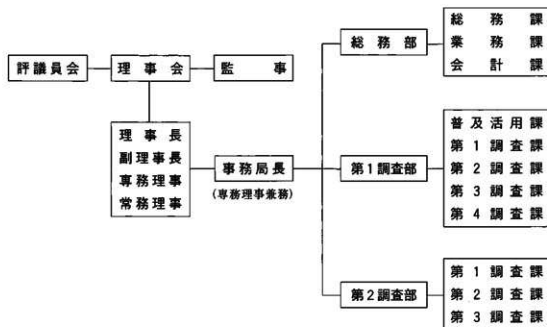
6 組織・機構

役員（平成26年4月1日現在）

理事長 坂本 均
 副理事長 畑 宏明
 （平成26年8月28日退任）
 専務理事 中 田 仁
 常務理事 千 葉 英 一
 理事 白 杵 勲
 理事 菊 池 俊 彦
 理事 越 田 賢 一 郎
 理事 関 口 明 子
 理事 本 田 優 子
 理事 山 田 悟 郎
 理事 山 本 伸 弘 夫
 監事 佐 藤 一 夫
 監事 森 重 楯 一

評議員（平成26年4月1日現在）

評議員 氏 家 等
 評議員 遠 藤 龍 敏
 評議員 川 上 淳 一
 評議員 木 村 方 一
 評議員 小 西 俊 和
 評議員 小 佐 藤 俊 和
 評議員 昌 子 守 彦
 評議員 丸 九 俊 明
 評議員 西 幸 隆
 評議員 松 田 光 院
 評議員 松 本 昭 一
 評議員 松 本 健 彦



7 職 員 (平成26年4月1日現在)

事務局長 (兼務) 中 田 仁

総務部

総務部長 和田基興
 総務課長 葛西宏昭
 主査 小杉充博
 参与 前田博秋
 参与 作田千秋
 主査 礪田千秋
 主査 中村貴志

課長 菅野聡
 査 小笠原学
 査 本宏俊
 査 今田俊一
 参与 湯佐龍
 参与 佐立野賢
 参与 徳田京次

第1調査部

第1調査部長 (兼務) 千葉英一
 普及活用課長 鎌田望
 主査 倉橋直孝
 主査 藤井浩
 主任 藤本昌子
 第1調査課長 田口尚
 主査 柳瀬由佳
 主査 吉田裕史
 第2調査課長 鈴木信
 主査 菊池慈人
 主査 鈴木宏行
 主査 山中文雄
 嘱託 高橋美鈴
 第3調査課長 土肥研晶
 主査 立川トマス
 主査 袖岡淳子
 主査 直江直人
 嘱託 渡井雄曠
 第4調査課長 皆川洋一
 主査 立田理
 主査 大泰司 統
 主任 佐藤和雄
 主任 谷島由貴

第2調査部

第2調査部長 三浦正 人大
 第1調査課長 中山昭 大覚
 主査 影浦淳 一
 主査 福井秀 治
 主任 酒井谷 志
 第2調査課長 熊原 興
 主査 笠新家 水
 主査 新阿部 明
 主査 阿坂本 尚
 主査 佐藤 剛
 主査 富永 勝
 第3調査課長 村田大 司
 主査 越田 雅
 主査 愛場和 正
 主査 末光 良
 主任 佐田 俊
 嘱託 奥山 さとみ

調 査 年 報 27

平成26年度

平成27年3月6日発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリ
〒061-1195 北広島市西の星507番地1
TEL 011-375-2116(代)・FAX 011-375-2115
